



# スカウトだより

発行 / ボーイスカウト鳥取連盟米子第11団

第86号

令和5年12月10日



ご挨拶

ボーイスカウト米子第11団  
団委員長 小野政彦

米子第11団の関係者の皆様方には、日頃より、当団のスカウト活動に対し、多大なご尽力を頂き、誠に有難うございます、心より御礼申し上げます。

私は、本年四月より、前堀尾団委員長より、この重責を引き継がして頂きました。まずは、出来る事から、少しずつ、確実にこの職責を務めて参りたいと思っております。就任以降も、皆様方には、各隊活動を始め、しっかりとした活動をして頂き、特に本年は、8月の25WSJ、10月の県連大会等があり、各指導者、保護者の方々には、大変お世話になりました。今後、皆様方のご意見を拝聴し、スカウト達が、今まで以上に。活動に夢を持ち、楽しみ、将来の人生に、少しでも役に立つ経験が、当団の活動に於いて出来るよう、考え、努力したいと考えます。

どうぞ皆様、今後共、宜しくお願い申し上げます。

## 引率指導者の言葉

### 日本派遣団第30隊隊長 神庭尚志

韓国のセマングムで開催された第25回世界スカウトジャンボリーに参加しました。米子第11団から8名のスカウトが参加を希望したことから、指導者としての参加を申し込みました。今回の派遣隊は鳥取、岡山、島根、広島各県の混成隊です。保護者説明会、事前訓練に加え、リモートでの説明会をおこなう程度で大会本番です。出発直前、準備訓練中に我団から参加予定の1名がCOVID-19陽性となり、参加を断念することになりました。さらには副長の一人もCOVID-19陽性となり参加を断念、とても残念な始まりとなりました。

大会会場の様子は日本で報道されていた状況です。トイレやシャワーの数が少なく、衛生的ではない状態のものが多くありました。食料の配給についても



遅れたり、数が違っていたり、食べられないものがあつたりしました。会場の工事も完了しておらず、開会後も重機が働いており、害虫駆除の薬剤散布車両が会場内を走り回っていました。提供される予定のWi-Fiが使い物にならず、大会運営にも支障が生じていました。

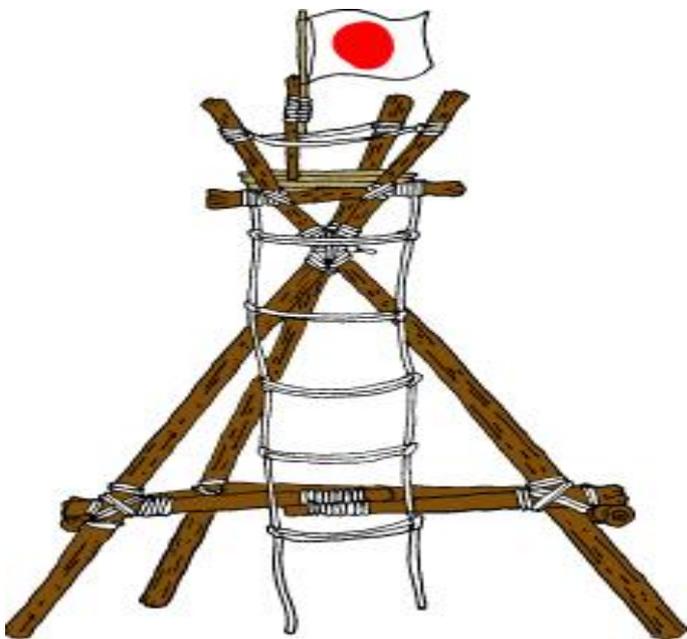
我々が会場入りした後は好天に恵まれましたが、気温が高く湿度も高い中、日影が無く、広い会場では熱中症患者が大量に発生していました。このため、屋外で予定されていたプログラムは軒並み中止となり、時間を持て余す状況となってゆきました。

そんな中でもスカウトたちは逞しく活動していました。いくつかの参加できるプログラムを見つけては参加し、スカウトショップやコンビニの周辺などで外国スカウトを捕まえては交歓していました。テントサイトでも隣接する他国のスカウトとカードゲームやバレーボールを楽しみ、記念品交換や友情交歓に励んでいました。参加スカウトたちの「世界ジャンボリーで外国スカウトとふれあう、交流する」目標は達成できたようです。

台風6号の接近により待避を余儀なくされ、大会の後半は韓国観光となってしまいました。それもまた韓国文化にふれあう機会となりました。



引率した指導者としてはとても残念な大会になりました。また、帰国したスカウトたちの多くが「次回の世界ジャンボリーにISTとして参加したい」との感想を寄せてくれており、とてもうれしくて頼もしく思えました。



今年の夏、韓国・全羅北道セマングムで開催された第25回世界スカウトジャンボリーに、米子第11団から、7人のスカウトが参加しました。以下は、参加スカウトの感想です。



### ボーイ隊 寄川大樹

僕は、8月1日から8月12日まで「25回ワールドスカウトジャンボリー」に参加しました。今回のジャンボリーは、世界158カ国、45,000人が参加し、日本からは1500人のスカウトが参加しました。

8月1日韓国の仁川空港に到着したときは、初めての海外でとても興奮しました。これから始まるジャンボリーが楽しみでし

ょうがなかったです。8月2日ジャンボリー会場到着。いろいろな国の人がいてハイタッチをしながら開会式の会場に向かいました。



開会式では、今回のジャンボリーに参加している国が発表され「ジャパン」と呼ばれたときに「イエーイ！」と大きな声で叫びました。他の国が呼ばれていた時には、大きな拍手を送りました。

二日目からは、ジャンボリー会場での環境の悪さを感じました。とても気温も高く、日影が全くないので熱中症になる人が多かったです。シャワーは水。トイレも不衛生でした。

僕が参加したプロジェクトは、「海岸プロジェクト」「アスレチック」「鍋敷き作り」でした。一番楽しかったのは「アスレチック」。木と木の間に張ってあるロープや壁を使って綱渡りをしました。ロープから落ちないように必死でしたが、それがとても楽しかったです。時間があれば隊の人たちと声を掛け合って、他の国のキャンプサイトに行き物々交

換をたくさんしました。英語が話せなくてもジェスチャーで思いは伝わることや、日本の物は外国の人にとってとても魅力があると感じました。僕は日本人に生まれて、とても誇らしく思いました。自分の言葉で思いを伝えたり、相手の言っていることを理解できたりすることができたら、もっと良かったと思いました。

大変なことも多かったジャンボリーでしたが、世界中にスカウトの仲間がいること。世界の中で日本がとも評価されていること。がわかりました。4年後ポーランドでの世界ジャンボリーにも何かしらの形で参加したいと思いました。

### ボーイ隊 浅中悠大

僕は25WSJに参加し、会場である韓国のセマングムで開催された約2週間の長期キャンプで様々な、そしてほかではなかなか得ることができないような貴重な体験をしました。僕はこの経験を、ボーイスカウト活動だけにとどまらず、これからの生活や将来にまで役立てていこうと思っています。

この25WSJは僕を大きく成長させたと思います。思えば僕は、これが初の大会でした。県大会は年齢により湖山池のキャンプには行けませんでした。100kmマラソンやハイキングはしましたが、結局キャンプにはいけていません。そして日本ジャンボリーも団ごと辞退し、いけていません。つまり、県大会にも、日本大会にも行けず、最初が世界大会な訳です。とてつもなく高いハードルでしたが、それにしてはよく頑張ったと自分では思っています。悔いはありません、とはいえませんが。もっとしたいこと、挑戦したいことはまだまだありました。台風を恨みます。いや、今も恨んでいます。恨み続けるかもしれません。しかし、できた数少ないことの中にも、僕を成長させたことが、数多くありました。恨んでも25WSJは戻ってはきません。しかし、26WSJがあります。今得たことで、これからをがんばっていこうと思っています。

誰かに言われたとおり、25WSJは損にはなりませんでした。

むしろ、大きく得になりました。次の26WSJはポーランドの予定です。僕は、そこにIST



としていけるよう、がんばります。もし、ISTとしていったら、今回を見直し、失敗したことをバネに、逆に今回できなかったこと、結局できずじまいだったことをたくさんし、もっともっと今回よりも積極

的にしていこうと思っています。そのために、この先4年間のスカウト活動、そして英語をがんばっていききたいと思います。もちろん、26WSJが終わった後も、この2つはがんばっていきたいです。よく知りませんが、ISTとして26WSJにいくときも、その前に面接などがあって、もしかしたらそこでおちるかもしれません。そうならないよう、しっかりスカウト活動に励んでいきたいです。

### ベンチャー隊 國谷拓希

僕は、日本派遣団として初めての世界スカウトジャンボリーに参加した。参加すると決まった時は、日々訓練に来てない人でも参加出来るのかと不安だったが、楽しみの方が勝ってしまった。訓練キャンプの時には中国地方の派遣団員と初めての顔合わせをしたが、初めてみる顔や日本ジャンボリーで会った顔の人もいた。正直自分だけじゃなく同じ鳥取の人も多くいたから安心した。最初は、誰が年

上で誰が年下かなど色々なことを考えていたが、接してみるとあまり気にしなくなった。本番前の



合流では馴染みのある顔が多くなって嬉しかった。そこで新しい友達や同じ班の中でも壁が無くなった。本番までの道中は楽しかったし、何より久々の海外渡航で気分が興奮していた。

韓国に着くとそこは英語よりハングル語が目立ち不安だったが、何とか乗り越えられた。最初のホテルでは同部屋同士仲良くなれ、これから先は大丈夫と確信した。いよいよ会場に入ると、異国の雰囲気漂い、さらに興奮を引き立てた。早く海外のスカウトと交流したい面もあったが、気持ちは抑え設営に励んだ。

開会式はとてつもなく豪華だと感じ、日本ジャンボリーより活気が熱くワクワクが止まらなかった。その日は興奮してあまり寝れなかった記憶がある。

ジャンボリー内のプログラムでは、班員のメンバーと共に活動に参加したかったが、熱中症警報のおかげであまり参加できなかったのが悔しい。唯一のプログラムは、大いに楽しめたと思う。しかしまさか台風で大会が中止になるとは思わなかった。中途半端でいろいろ問題にはなっていたが、自分、その中でも嫌味ひとつ言わず楽しめた方だと思う。これには感謝だ。救仁寺に行く時は、どうなることやらと不安+心配もあったが、その心配は不要だったようだ。日本派遣団 1500 強の人が集まると、安心

するものだ。救仁寺は急な措置だったが、スカウトのために尽くしてくれ感謝感激だ。また雑魚寝かとは感じたが、仕方がない。寝れる環境があるだけマシだ、と考えていた。いろいろこれまでスカウト間などで問題もあったが、いざ帰ってみるととても貴重な経験だった。

僕は、一緒に派遣団の友達と今度の世界スカウトジャンボリーは、ISTとして共に参加しようと思った。それぐらい自分に影響を与えるスカウト活動だったと実感した。これに行くと決めた時、支援してくれたスカウト、家族、指導者にもう一度感謝を伝えたい。ありがとう。

### ベンチャー隊 山本莉輝

今大会のテーマは「Draw your dream」でした。僕はこの大会に参加したことで、自分の夢を広げる想像力、夢に近づくための貴重な経験、そして実際に夢をかなえることを実現することができました。また、そのすべてが一生涯のものとても楽しい思い出となりました。

まず自分の夢を広げる想像力についてです。第一に、この大会に参加することが自分にとっての初の海外経験でした。当たり前ですが、外国は本当にあるということを実感し、文化や趣向の違いを体感しました。第二に、韓国の人のおもてなしに感動したことです。よく日本のおもてなしはすごいと聞きますが、韓国もすごくて感動しました。やはり日本にいただけでは情報が偏るようです。詳しく書くと長くなるので省略しますが、韓国のホテルやスタバ、お寺でおもてなしに感動しました。さらに、文化交流デイでも、各国のおもてなし精神に感動しました。

次に夢に近づくための貴重な経験についてです。第一に、こんなにも多くの国々の若者たちと交流しあえる経験は、とても貴重だったと思います。交換はもちろん、外国スカウトと一緒にトランプやバレーボールをした経験によって、英語さえ少しできれば誰とでも

コミュニケーションとれるし、なんならできなくてもどうにかすることがわかり、外国人を外国人だと感じないようになりました。第二に、過酷な環境を体験できたことです。ネットでは気候や衛生がひどくトラブル続きだったといわれていました。確かにそういうところもあったのかもしれませんが、災害時など自然に翻弄される生活を送らなければならない状況に陥る可能性もあり、それをストレスも少なく生きぬ



けるような経験を積めたと思います。何が起こるか分からないミステリーなキャンプも楽しいものでした。

そして実際に夢を叶えることができたことです。僕は今回の大会において外国スカウトとの交流を重要視していました。自分から話しかける勇気も持っていたし、いろいろ準備したものも使え、一緒に遊ぶこともできました。このように夢を叶える体験もできました。

こうして、大会テーマ通りに大会を楽しむことができました。30 隊、ペンギン班の仲間も一生ものの宝物だと思います。最後に、準備から帰るまでものすごい労力や時間をかけて僕たちを安全に楽しませてくれたリーダー、長らくサポートしてくれた自隊の指導者の方々、多大なお金や時間をくださった家族にも感謝しながら今大会の経験を活かし、夢を描き続けたいと思います。

### ベンチャー隊 三原昊大

今回の世界スカウトジャンボリーは史上最悪のジャンボリーとの呼び声も高く、確かに不便な点も多く、過酷なジャンボリーであったと思います。しかし、そのような中でも大変なことばかりではありませんでした。

僕は、外国人との交流が最も楽しかったです。もちろん、言葉の壁は多少なりともありましたが、英語であれば話している内容は大抵わかるようになりましたし、言葉を越えたコミュニケーションもあり、心が通じ合ったように感じ、嬉しく思いました。また、文化交流デイでは様々な国の食べたことのない食べ物をたくさん食べました。僕はインドのお菓子がとても口に合いました。そして、チーフなどの物々交換もとても楽しかったです。人通りの多い場所でバザーを開き、たくさんの人と喋った時は、ジャンボリーの楽しさを身に沁みて感じました。そして、韓国の食べ物は総じて美味しかったです。やはり、辛いものばかりでしたが、それが刺激となりとてもおいしかったです。個人的にはみんなで作ったラーメンが辛くて美味しかったです。韓国の食べ物が日本で流行することにも頷けると思いました。



また、閉会式の K-POP コンサートも非常に楽しかったです。僕は、K-POP の方面についてあまり明るくないのですが、あのような大型のコンサートに行ったことがないため、とても新鮮で楽しかったです。声を出しすぎたため、翌日はあまり声が出ませんでした。

また、閉会式の K-POP コンサートも非常に楽しかったです。僕は、K-POP の方面についてあまり明るくないのですが、あのような大型のコンサートに行ったことがないため、とても新鮮で楽しかったです。声を出しすぎたため、翌日はあまり声が出ませんでした。

した。

今回のジャンボリーで痛感したことは自分の英語力の無さです。もっと単語を覚え、日常生活に差し支えないほどの英語力を身につけようと決心しました。そして、海外の人との感覚の違いについても学びました。例えば、海外の人達ははっきりしたことを好むため、多分と言うと少し不審がるような目を向けてきました。そのような違いも面白いと感じました。

今回のジャンボリーは様々な障害がありましたが、一生忘れることの出来ない経験となったことは、間違いありません。今回の貴重な経験を勉強などの原動力として生活していこうと思います。

### ベンチャー隊 浅中淳志

八月一日、私たち 30 隊は、セマングムにある大会会場に入りました。第一印象としては、寂しいところでした。先に聞いていたとおり、日陰は全くといっていい程なく、各サイトに立つマーキーテントとパレットの山がどこまでも続いていました。日差しが強く、水くみ場で他国のスカウトが水をかぶっている姿がバスから見えました。地面は先日の雨がまだ抜けておらず、快晴にもかかわらず地面はぬかるみ、でこぼこしていました。

朝夕食は配給があり、FOOD SUPPLY から受領します。しかし、配給された食材がとても多く、食べることができませんでした。当たり前ですが、量が日本人向けではなく、外国にきたことを改めて感じました。

会場入りして二日目は、念願の洗濯ができました。二十九日に出発してから洗濯できていなかったもので、ありがたかったからです。また昨日に続き洗濯日と地面もまだ湿っていたので、いい洗濯になりました。三日目は、場外プログラムで海に行きました。とても遠浅で、水につかれるようになるまでかなり歩きました。夏の太陽に照らされ海水は、「お風呂か!？」と思うほど熱く、とても驚きました。



次の日は場内プログラムの予定でしたが、暑さのため中止となり、どこにも行くことが出来ませんでした。気温は 40°C に達し、とてもたいへんな環境でした。いつも救急車が走り回り、サイレンを響かせていました。地面が乾くと砂が舞い、服も髪も洗濯物も砂まみれになりました。

四日目は、ついにプログラムに出かけることが出来ましたが、暑さのためどこも開店休業状態で、ともにアクティビティが出来ませんでした。片道約八キロも歩いたのにとっても残念でした。

この辺りから、生活環境の悪化が目立ち始めました。スタッフの不足などからトイレは汚れ、どこも詰まっていました。シャワーも水圧が低く、使い物になりませんでした。水道も水がほとんど出ず、排



水溝が詰まり地面には汚水がたまっていました。衛生環境は、最悪の域に達していました。

文化交流日にはみんなの努力で、うちのサイトには多くの人々が訪れてくれました。やはり、多くの国から日本は人気でおそらく、「シドニー」で最多だったのでは？と思ったりもしています。

六日目辺りから、徐々に衛生環境が整って来ました。トイレは増設され、水圧も回復しました。さらに大量に動員されたスタッフのおかげで、あちこちがきれいになりました。

七日目にもなると、生活のルーティーンも出来てきて、生活にかなり慣れ初めました。しかし昼頃、衝撃的な噂を耳にしました。イギリス、アメリカに続いて日本も撤退するというものです。大慌てでお土産を買いに行き、その後日本だけが撤退するのは無く、「全体が台風に向けて緊急避難する」と言うことがわかりました。

最終日もいつものように朝ご飯を作り、その後 ゆっくりと徹営を進めていきました。しかし、外国の隊の様子は少し違うようでした。全て出しっぱなしで、自分の荷物だけを持っていったようでした。あるサイトでは、まるで夜逃げしたかのような散らかり具合で、地面に庖丁が突き刺さり、ガスボンベが散乱し、コンロも出しっ放しで、調理しかけのフライパンがのっていました。テーブルの上には、食べかけの食材と飲みかけのコーラが置いてあったのが印象に残っています。

八月八日、私たち三十隊は、こうして大会会場を去りました。強い日差しと舞い立つ砂埃ですが、また見に来て良いなと思いました。

### ベンチャー隊 足立将悟

僕は、あの 25wsj に参加して、とてもいい体験になりました。台風や熱中症などさまざまな問題がありましたが、それでも韓国で、行えた活動は貴重でした。

2 日目のジャンボリーでの活動で楽しかったのは、

松林でのアスレチックや、貝がいっぱいいる海で泳いだことです。アスレチックは、とてもスリルがあるものがたくさんあって楽しかったです。あとは、自分でやる洗濯も屋外でのシャワーも 1 週間続いたのはこれが初めてでした。それから、前述しましたが、ジャンボリー会場は、非常に暑く熱中症患者が大勢でて救急車がかなりサイレントを鳴らして大量に走っていたことを今でも覚えています。おかげでジュースや氷、アイスキャンディーが品薄状態になっていました。おかげでプログラムがほぼできないまま、ジャンボリー会場を、去ることになりました。

5 日目のさまざまな国の人たちとの交流も、いい思い出です。インド、インドネシア、イタリアといろんな国の人たちと交流ができて、美味しい食べ物や、面白い遊びが楽しめて、とてもいい思い出として記憶に残りました。楽しかったです。

7 日目の途中から、ジャンボリー会場を離れるというよりも撤収しました。何処に行くのかという不安もありましたが、それと同時にアドベンチャー感覚の謎のわくわく感がありました。そしてついで先は、日本とはまた違う



お寺に付きましました。僕たちが泊まったのは光明寺という真言宗の寺で、僕らは 6 階に泊まりました。翌日は、スカイウォークや湖の崖のギリギリを歩いたり、水族館で魚はもちろん、カワウソやトカゲなどもいてとても面白かったです。

最後の十日目は K-pop ライブを世界中の参加者と一緒に盛り上がりました。音楽がとても弾けていてとても素敵な夜になりました。

なんだかんだいって、やっぱり世界スカウトジャンボリーは、楽しかったです。この思い出は今でも忘れません。

### 第 25 回世界スカウトジャンボリーについて

【テーマ】 Draw your Dream! (あなたの夢を描こう) 【開催期間】 2023 年 8 月 1 日 (火) ~ 8 月 12 日 (土)

【会場】 韓国・全羅北道セマングム

【大会規模】 170 の国と地域から約 45,000 人。日本から約 1,500 人が参加。

# ボーイのひろば

## 丸山 虹翔 「八月最後のキャンプ」

八月の最後にキャンプをしました。最初タープをたてて、つくえやいすをはこびました。そのあとテントをたてて、時間ができたのでコンテナの整理をしました。するとぜんぜんないものや、たくさんあるものいろいろ出てきました。前までのキャンプでは、コンテナをあさってたりない皿などを見つけていたので、整理をしてよかったですと思いました。

夜ごはんは、おいしくできたのでよかったです。でも食器をあらった後、干すところがなかったので困りました。なので次からのキャン



プでは、食器棚をつくりたいと思いました。片付けが終わったあとに、八月中 9 時からやっている皆生の花火を見に道路に出ました。三分間しかない花火だったけど、とてもきれいでした。花火を見終わった後、寝る準備をしました。だけど、とても暑くてなかなか寝れませんでした。

次の日の朝は、五時半に目がさめました。キャンプの日は、毎回五時半に目がさめるので、起きたらすぐテントから出れるように、カバンの準備をしています。六時起床でハウスの前に朝の散歩に行きました。散歩から帰ってきた後は、海岸清掃に行きました。行こうとした時、海に人がいっぱいいてゴミ拾いをしていました。そのおかげでゴミがまったくなく、このままゴミがなくなればいいと思いました。ハウスに戻ってきて朝食をつくって食べました。片付けが少なく早く終わりました。食べた後は、すぐタープやテーブルを片付けました。10 時解散だったけど、すこし遅れてしまいました。でもとても楽しいキャンプができてよかったですと思いました。

## 野坂太一 「1 月から 4 月までの感想」

この期間を通して全体的に体力や技能が向上しました。

特に夏休み中の 2 泊3日のキャンプでは、ボーイ隊

の生活の中で欠かすことのできない調理やロープ、テント等の設営術からテントの生活やボーイ隊の生活の基礎が身に付き、海水浴などでキャンプ全体が楽しめた良いキャンプでした。

その他にも夏休み前から夏休み中まで多くのキャンプを経験し、その中で大事な自炊法やいつ何をするかなどのキャンプに必要なことも分かったし、他の皆さんと生活するうえで楽しさを感じられ、キャンプの技能が向上し、キャンプに慣れることができました。

また 10 キロハイクでは、持参の地図と自分の周りにあるものなどから、自分の位置や目的地までの経路のチェックポイントを進んで、自分や他の皆さんと熱中症などにも気をつけて安全に目的地まで歩け、自分の体力を向上させることができ、歩いた場所は道や他の場所への経路などが分かり、普段の生活に活かせるようなこともありました。

また全ての活動で生きていくうえで必要な知識や技能、物に対するありがたみを強く感じられ、強い体と心ができました。

私はこの期間を通してキャンプはもちろんのこと、10 キロハイク等を通して自分の体や体力、ボーイ隊の活動の基礎が身に付きました。

また他の皆さんと活動することで楽しさを感じられたとても意義のある活動でした。

## 陶山 瑛次郎 「今年度のこれまでの思い出」

僕の中での一番の思い出は、7 月にハイキングをしたことです。

なぜなら、地元である、淀江でハイキングができ、他の班のメンバーに案内ができたからです。ハイキングをやるのは久しぶりでとても疲れたけれども、最後までがんばって行えたのでよかったです。

今年三年で受験や塾などがあり、勉強ばかりやっていて、アウトドアなど外で楽しいことができていなかった



で退屈だったけれども、夏休み楽しめなかった分、夏休み前後で楽しめられたり、これから楽しく活動を行いたいのので、県大会などこれからある活動もがんばって行えるようにしたいです。

# ベンチャーの広場

## 【ナイトハイク】

福住 陽路

今回のナイトハイクは、僕にとってこれまでで最高のものとなった。僕が初めてナイトハイクに参加したのは小学5年生の時だった。当時の僕は、長い距離を夜通し歩くということがよく分かっておらず、とても楽天的な気持ちで臨みましたが、そもそも僕はそれほど長い距離を歩いたことがなく、さらに季節的にかなり寒く、とても辛かったという思い出が残らなかった。しかし、それからたくさんのボーイスカウト活動のなかで体力や精神力を鍛えられ、徐々に夜通し歩くという



ことが辛くなくなり、少しずつ楽しめるようになってきた。そして、今回のナイトハイクは、コロナでしばらくの中断があってから久しぶりのナイトハイクとなったが、今までとは違い終始楽しかった記憶しかなく、6年前とのギャップに驚くとともに、自分の大きな成長を感じることができ、とても貴重な体験となった。しかし、僕もあと何回スカウトとしてナイトハイクに参加できるかわからないので、この1年間でさらに体を強くし、また機会があればさらにナイトハイクを楽しみたいです。

陶山 慎太郎

6年生のボーイの時に、東松江から東山公園までをナイトハイクをしてから、4年はしていませんでしたが、ついに4年ぶりのナイトハイクになりました。最初は楽しみでしかたがなかったのですが、スタート点の御来屋駅に着いた時から、少しだけ緊張しました。ですが、久しぶりのナイトハイクを楽しもうと思い、最後まで諦めずに米子まで目指そうと意識して進みました。

一番最初だったので、余裕をもって歩いていましたが、大山口を過ぎたぐらいから睡魔に襲われ、眠気をこらえながら歩きました。しかし、今津に着いたぐらいから慣れ親しんでいる淀江なので元気がでて、大和公園のラーメンポイントまで元気よく歩くことができました。待ちに待ったラーメンポイント。久しぶりのナイトハイクで食べたカップラーメンは絶品でした。ラーメンポイントで温まってきた体で、日吉津を越えて日野川まで着いたところで、疲れによる足の痛みができて、たびたび休憩を挟みながらなんとか旧日野橋を越え

ました

やっと対岸にたどり着き、足の痛みをなんとか抑えながら米子駅を越えて、ゴールの米子城址までやっとの思いで着くことができました。そしてそこから見た、祝福とも捉えるべき朝日を見て、久しぶりのナイトハイクの最後の思い出にふさわしい光景だなと思いました。

このナイトハイクを通して、4年前を思い出したのと同時に、4年前よりも少しですが成長したところがあるなど感じることができました。4年ぶりのナイトハイクは、自分の成長をまた新たに見つめ直していけるいい機会になって良かったと思います。

野坂 一平

僕が最初にナイトハイクに参加したのは、小学6年生のときでした。ものすごく眠くて、途中眠りながら歩いた記憶があります。今回4年ぶりにナイトハイクをすると決まって、絶対眠らずにゴールしようと思いました。

当日は雨も降らず、丁度いい気温で、カブスカウトの頃からの友達と一緒に楽しく歩きはじめました。僕は、持病の関係で飲食したあと横にならないといけなくて、途中から休まないといけず不安でしたが、最初は楽しく雑談しながら歩いたり、きれいなアジサイの写真を撮ったりしていました。途中水分補給して、渡部さんの車で横になって休んでから合流して、また歩きはじめました。途中から全く会話がなくなって、黙々と歩き続けてラーメンポイントまでたどり着いたとき、ここまでよくやったあと自分を褒めました。あとは知っている道なので、安心感もあって絶対に寝ないと決めていたのに、ラーメン食べて休むとすぐ寝てしまいました。渡部さんに起こされてみんなと歩き出したときには3時半で、時間的に日の出に間に



合うか不安だったので、急ぎながらゴールを目指しました。休んだはずでしたが、しばらく歩くとみんなと差がつき始めてしまいました。みんな

運動部で体力があったので、ちゃんと体力つけないといけないと実感しました。なんとかゴールに到着したあと、そのまま城山に登って朝日を見ることができました。すごくきれいでみんなと何枚も写真を撮りました。

ナイトハイクをして忍耐力が上がったと思います。部活が忙しいのでなかなかスカウト活動に参加できませんが、ほんとに参加して良かったと思います。最後の城山が相当キツかったですが、すごくいい景色が見れて、この景色をPRして人を呼ぶような活動を今後してみたいと思いました。来年も参加しようと思

# カブ隊の広場

イエローパー訓練

高津佐 孝太郎

今日は、イエローパー訓練がありました。しかでは、わからなかったことが多かったけれど、訓練を通じていろいろな技術が身につきました。くまとして、組長としての自覚も意識して活動したいなと思いをしました。細かい足さばきがむずかしく、間違えやすかったです。国旗も、2人のタイミングが大事だと知ったので気を付けたいです。2人しかいないカブ隊だけれど、最後の1年を楽しもうと思います。

カブ弁作り 高津佐 孝太郎

今日は、スカウトハウスでカブ弁づくりに挑戦しました。二人なので役割分たんもきびしく、よゆうがありませんでした。ぼくは米をたく係になりました。なかなか思い通りに行かず、ひまになりましたが、重要な役目の責任を感じたのでがんばりました。ご飯への希望が見えたので、しっかり目をはなさずに見守りました。

ご飯がたけて、おかずも出来ていたので、カブ弁をつくりますおかずと米のバランスがとてもむずかしかったです。でもどれも上手くできたので成功です！濃かったり、うすかったりもあったけれど、どれも美味しかったなと思います。お米をたくのがこんなに大変だと改めて知りました。お米の大切さを実感的な体験になりました。後片付けもバッチリできたので、成功だったかなと思います。

二人でさみしい部分もあったけれど、今日の事をかてにして、これからも一年はげんでいきたいと感じました。

カブ弁作り 山本 貫太

カブ弁を作って楽しかったことは三つあります。一つ目はカブべんを食べたことです。理由は自分たちで作ったものを外で食べることがあまりなかったから、おいしかったです。二つ目はブブべんの具を作ったことです。理由は自由に具を作ってそれをみんなに食べさせるのが楽しかったです。三つめはカブべんを作ったことです。カブべんを一から外で作って、いろんなことがありやっただことがないことばかりだったけれどうまくできてよかったです。またやりたいです。



夏野さいカレーを作った  
山本 貫太  
夏野さいカレーを作っておいしか

ったです。夏野さいカレーを作るときにむずかしかったことは野さい切ることです。

とくにトマトとピーマンをきるのが丸い形でむずかしかったです。楽しかったことは、ポップコーンを作ったことです。ポップコーンがはねるときの音がおもしろかったです。人数が多くなったらまたやりたいです。



松江城の見学 高津佐孝太郎

今日は、松江城に行きました。JRとバスの時刻表を調べながら、行き方と帰り方のかんがえました。切ぶも、ミスったら終わりなのでしん重に買いました。結局すぐ買えました。列車の中ではひまな時間を過ごしました。駅に着き、バスに乗ります。めっちゃゆらゆらしました。松江城に着きました。日曜だったので、めちゃくちゃ車がこんでましたね。入場券は、よゆうでゲットできたので良かったです。松江城の入口の広場に武者おじさんがおられたのでいっしょに写真をとってもらいました。いよいよ入場します。深い井戸がありました。お金が入っていました。一階でハートのついた柱を探すのに10分、各界で3分くらい使いました。最上階は絶景でした。階段が急でした。しん重におりていまきました。おみやげ屋さんでは、しんじ湖の何かを使ったスナックとワッフルみたいなのを買いました。列車でもどります。今回でJRやバスの調べ方など、いろいろなことが分かったので良かったです。

松江城の見学 山本寛太

松江市の松江城の見学をして楽しかったことが三つあります。

一つ目は、JRに乗ったことです。理由は、電車を親がいないときに乗るのははじめてで、きんちょうしたけれど、うまくきっぷや電車に乗ることができてよかったです。

二つ目は、松江城です。理由は、松江城の中がいろんなものがあったり天守かくの外にも小屋や大きな石がきがあったりして、見てておもしろかったです。

三つめは、地図をもって駅までいくことです。理由は、自分たちで地図を見ていくのは、はじめてで、道をまちがえたけれどちゃんと駅に着いたときはすごうれしかったです。

人数が少なかつたけれど楽しめれたから、またやりたいです。



## ビーバーの広場

『ハイキング』 もりやま ようすけ

たのしかったよ  
むかしのいえとそうこがすごかったよ



『はじめてのビーバー』 さきかわ じゅり

きょうビーバーにいきました。はじめは、ただでみずで  
つぼうをつくりました。ふうせんをねらいました。ふうせ  
んにあたって、うれしかったです。つぎにみんなですいか  
をたべました。おいしかったです。さいごにわりばしのて  
つぼうをつくりました。いえでもつくってあそびました。  
たのしかったです。

またビーバーでたくさんあそびたいです。



そして、この  
はシールをあつめて、10こあつめてこえだワッペンをもら  
いたいです。

ぷらねたりうむ』 はまだ しげる

ぼくは、ぷらねたりうむにいきました。  
さそりざのはなしをききました。きれいでした。

『ハイキング』 さきかわ じゅり

きょう わたしは、ビーバースカウトでだいせんにいき  
ました。

おおがみ山じんじゃまであるきました。じんじゃでおま  
いりをしてから、山のみちをあるきました。山の中では、  
大きなどんぐりをたくさんみつけました。みつけてうれし  
かったです。たくさんあるいてつかれたけれど、みんなと  
いっしょにハイキングできて、たのしかったです。



《編集後記》

異常な暑さのこの夏 開催された世界ジャンボリー。ニュ  
ースで大変さを知り心配しました。またネットでの酷評も  
あり面白くなかったかなと思いきや帰国したスカウトに尋  
ねるととても良かったとの事。安心するとともにニュース  
を鵜呑みにするのはよくないかと反省しました。スカウト  
たちはまたひと回りたくましくなって帰ってきた事と思  
います。次はその経験をみんなに広げていってくださいね。

編集者 島田・渡部・秋田・清水・大村